

扱い	平成19年11月9日 宍道湖・中海問題等対策 特別委員会以降 解禁
----	---

記者発表資料

平成19年11月8日

提供先	松江市政記者クラブ
-----	-----------

## 松江市議会「宍道湖・中海問題等対策特別委員会」 の説明資料

平成19年6月12日付けで城東地区町内会自治会連合会・城東地区治水対策協議会から松江市議会議長宛に提出された陳情第28号について、平成19年11月9日の松江市議会「宍道湖・中海問題等対策特別委員会」の場で審議が行われます。

この特別委員会において、河川管理者である出雲河川事務所が陳情に対する見解を説明する予定になっています。

つきましては、特別委員会で河川管理者説明に使用する資料について、事前に配付し説明をさせていただきます。

### 説明内容

- ・「城東地区から松江市議会への陳情（具体的要望内容）」についての見解
- ・現計画・城東地区の意見をもとに検討した代替案の比較について

### 参考

宍道湖・中海問題等対策特別委員会  
平成19年11月9日（金）10時から  
松江市役所 第一常任委員会室

問 い 合 わ せ 先	
国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所	
TEL 0853 - 21 - 1850	
FAX 0853 - 25 - 0819	
(技)副所長	つちえ せいじ 土江 清司 (内線205)
建設専門官	かきみ のりゆき 笠見 紀之 (内線511)

城東地区から松江市議会への陳情

## 具体的要望内容

- 1) 大橋川は拡幅せず現状のままとし、護岸嵩上げはパラペット方式として下さい。
- 2) 計画洪水位はHP+2.5mとなっているが、この水位を可能な限り下げて環境保全に勤めて下さい。
- 3) 上流部の放水路計画は300m<sup>3</sup>/s前後の能力とすることが望ましい。
- 4) 築堤方式の大堤防は環境上絶対避けるよう配慮して下さい。
- 5) 現在の松江大橋・新大橋2橋は、これを絶対架け変えせず補強程度に留めるよう配慮して下さい。

1)大橋川は拡幅せず現状のままとし、護岸嵩上げはパラペット方式として下さい。

- ◆ 斐伊川・神戸川の治水計画は、昭和47年の水害を契機に、上流、中流、下流のそれぞれが治水機能を分担することについて、流域の合意を得た計画です。
- ◆ すでに、ダム建設や放水路整備が進められているなか、大橋川の改修についても進めていく必要があります。



計画対象降雨は昭和47年洪水の実績降雨に対し1割増し程度（流域平均2日雨量399mm）

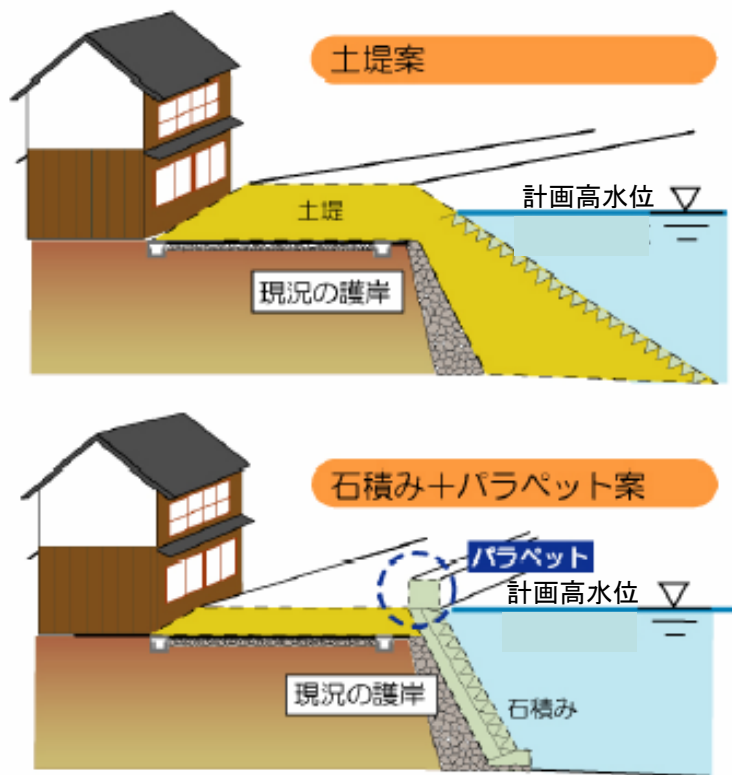
「斐伊川・神戸川の治水に関する基本計画の具体的内容(S54.11)」に対する議会同意経緯	
昭和56年 3月	松江市議会同意
昭和57年 9月	出雲市議会同意
昭和58年 2月	頓原町議会同意
昭和60年 3月	木次町議会同意、仁多町議会同意
平成 4年 6月	大社町議会同意

1)大橋川は拡幅せず現状のままとし、護岸嵩上げはパラペット方式として下さい。

- ◆ 堤防は、洪水を安全に流す構造のものでなければなりません。このため、計画で想定している洪水を安全に流せる高さ(計画高水位+余裕高)まで、「盛土」とすることが原則です。
- ◆ ただし、土地利用の状況などにより、計画で想定している洪水の水位(計画高水位)より上の部分(余裕高)については、パラペット方式とすることもできます。
- ◆ いずれにしても大橋川の改修は必要ですが、堤防の形状等については市民のみなさんの意見を伺いながら決めていきます。

「盛土」の理由

- ・ 構造物による劣化現象が起きにくい
- ・ 基礎地盤と一体としてなじむ
- ・ 地震等により被災した場合、復旧が容易
- ・ 施工に必要な工期が短い



2) 計画洪水水位はHP+2.5mとなっているが、この水位を可能な限り下げて環境保全に勤めて下さい。

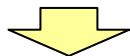
- ◆ 斐伊川・神戸川治水対策(3点セット)は、上流、中流、下流のそれぞれが治水機能を分担することにより、宍道湖計画高水位(H.P.+2.5m)を設定しています。
- ◆ 上流、中流においては、流域の合意を得た計画に基づき、志津見、尾原ダムは平成22年度完成、斐伊川放水路は平成20年代前半の完成を目指して事業が進んでおり、上流のダムと斐伊川放水路の計画規模をさらに大きくすることは現実的ではありません。



治水施設整備	宍道湖計算水位	備考
3点セットなし	H.P. +3.68m	—
ダム・放水路整備	H.P. +2.72m	ダム・放水路の効果により、3点セット無しに比べ宍道湖水位を96cm下げます
ダム・放水路・大橋川改修	H.P. +2.49m	さらに大橋川改修により宍道湖水位を23cm下げます

### 3) 上流部の放水路計画は300m<sup>3</sup>/s前後の能力とすることが望ましい。

- ◆ 大橋川の一部拡幅・掘削に相当する流量は約200m<sup>3</sup>/sであり、宍道湖から日本海へ分流する放水路を計画した場合、直径約9mのトンネル3本が必要となります。また、宍道湖水位(H.P.+2.5m)に対応した堤防整備は必要です。



- ◆ 大橋川改修に比べ、
  - ・事業費がおおよそ250億円増加
  - ・永年的なトンネル放水路の管理などが必要となり、治水計画上、大橋川改修より優れた計画とは考えられません。加えて、流域全体の新たな合意が必要となります。



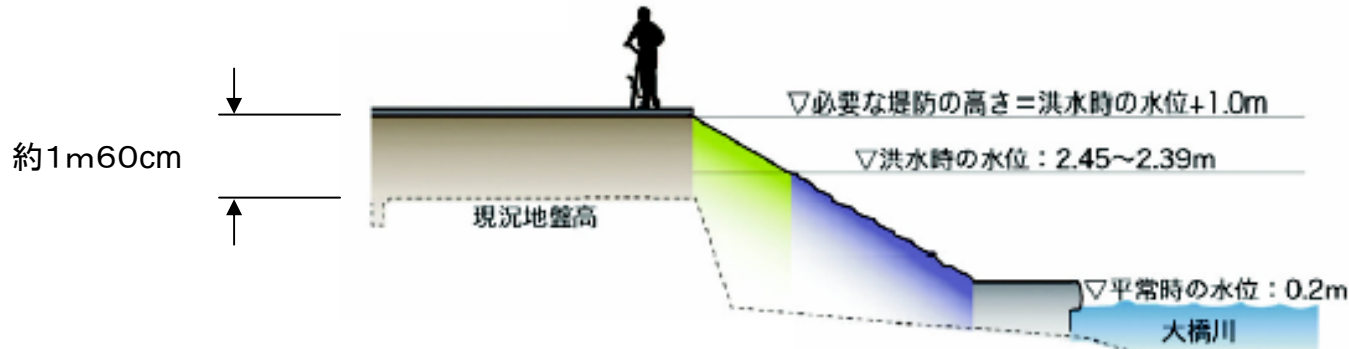
- ◆ 300m<sup>3</sup>/sの放水路とする場合、
  - ・直径約9mのトンネル5本が必要→事業費の更なる増加
  - ・宍道湖水位H.P.+2.36m
    - 大橋川の堤防整備は必要(大橋-新大橋間(北岸)の最低地盤高約1.8m)
  - ・永年的なトンネル放水路の管理
  - ・流域全体の新たな合意が必要 などいずれにしても、治水計画上、大橋川改修より優れた計画とは考えられません。



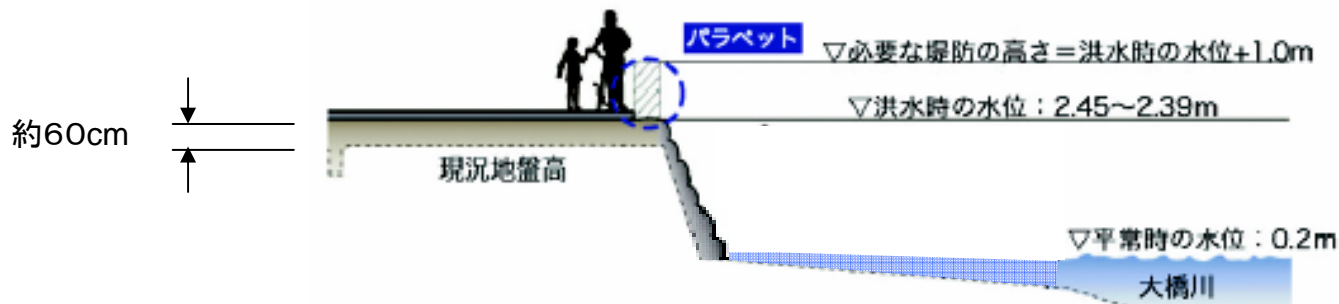
#### 4) 築堤方式の大堤防は環境上絶対避けるよう配慮して下さい。

- ◆ 松江大橋～新大橋の北岸では、計画で想定している洪水の水位より最大で約60cm地盤が低い箇所があります。
- ◆ 必要な堤防の高さまで盛土により施工すると、現況地盤より最大で約1m60cm高くなりますが、余裕高部分をパラペットにより施工することで、堤防の高さ(盛土の高さ)を最大でも現地盤より60cmの高さにまで抑えて整備することができます。

◆土堤案(新大橋上流約100m)北岸



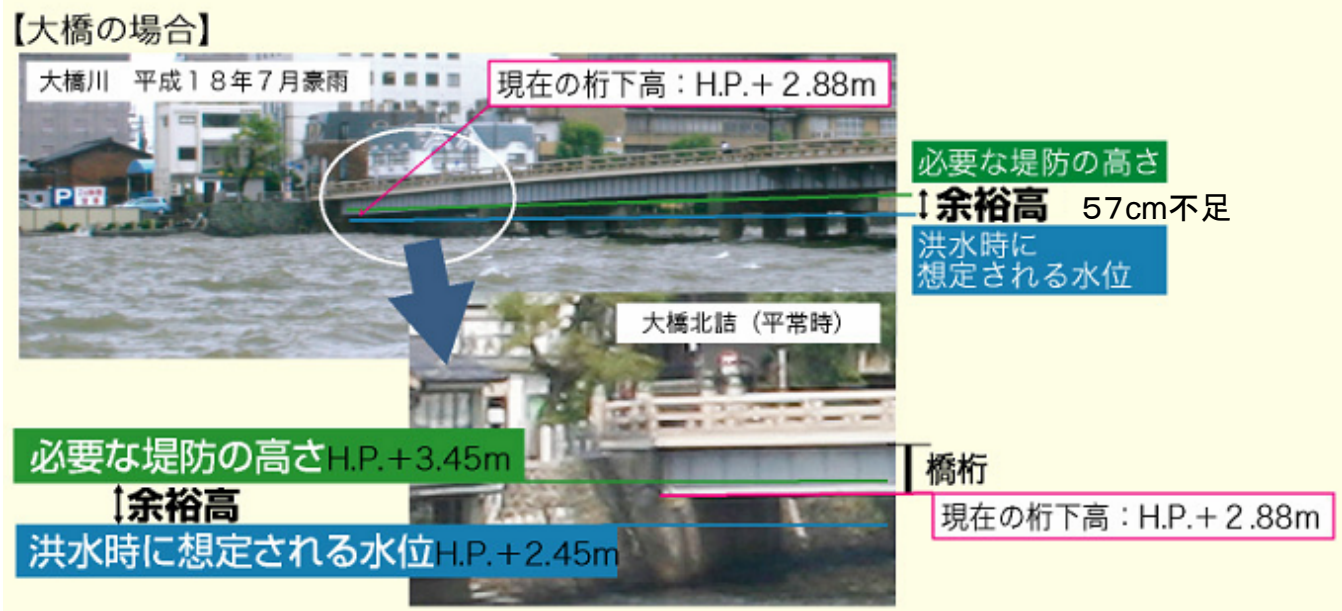
◆石積み+パラペット案(新大橋上流約100m)北岸



※断面形のイラストはイメージであり、堤防の形状等については、市民のみなさんの意見を伺いながら決めていきます。

5) 現在の松江大橋・新大橋2橋は、これを絶対架け変えせず補強程度に留めるよう配慮して下さい。

- ◆ 松江大橋、新大橋は、計画で想定している洪水の水位に対して余裕高が確保されていないこと、
- ◆ 松江大橋、新大橋は、大橋川の拡幅により橋の長さが不足すること、  
などから、洪水を安全に流すために大橋川の改修に合わせて架け替えが必要です。



- ◆ また、建設後70年を経過しているとともに、現在の耐震基準を満たしていないことから、将来的にはいずれ架け替えが必要となります。
- ◆ なお、架け替えにあたっては、高欄や灯籠など現橋の風情を残すこともできます。



# 現計画・城東地区の意見をもとに検討した代替案（西長江川開削＋トンネル）の比較について

	<div data-bbox="362 67 973 127" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">大橋川改修計画（現計画）</div> <div data-bbox="259 161 611 309"> <p>宍道湖水位：H.P.+2.5m 大橋川計画流量 ：1,600m<sup>3</sup>/s</p> </div> <div data-bbox="611 127 1087 427"> </div>	<div data-bbox="1181 67 2040 127" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">日本海へ放水路（西長江川開削＋トンネル）</div> <div data-bbox="1149 161 1554 309"> <p>宍道湖水位：H.P.+2.5m 大橋川計画流量：1,400m<sup>3</sup>/s トンネル放水路：200m<sup>3</sup>/s</p> </div> <div data-bbox="1574 127 2072 427"> </div>
<p>社会環境への影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上流・中流・下流の合意された治水計画です。（S56.3松江市議会は「斐伊川・神戸川の治水に関する基本計画に同意）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの合意事項の大きな変更であることから流域全体の新たな合意が必要となります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大橋川の築堤により約120戸の移転戸数が発生します。</li> </ul>	
<p>治水効果の発現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掘削、拡幅などの改修の進捗に応じて効果が発現します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西長江川開削により6戸程度の移転戸数が発生します。</li> <li>・宍道湖へ注ぐ現在の西長江川の雨水排水、農業用取水機能を確保する施設が必要となります。</li> </ul>
<p>自然環境への影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宍道湖、大橋川、中海、境水道の水環境や生物に与える影響を把握するため、環境調査を実施中です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呑口部（宍道湖側）、吐口部（日本海側）において景観阻害が懸念されます。</li> <li>・洪水時のみトンネルから日本海に大量の淡水が排水されるため、日本海の水環境変化や漁業への影響が懸念されます。（環境調査必要）</li> </ul>
<p>維持管理面等</p>	<p>大橋川の通常の維持管理 （新たな維持管理は発生しません。）</p>	<p>大橋川の通常の維持管理に加えて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放水路トンネル、潮止堰の維持管理が永年的に必要です。</li> <li>・洪水時、放水路トンネルの潮止堰ゲート操作が必要です。</li> <li>・日本海側の冬期風浪や河口閉塞等の対策が必要です。</li> </ul>

# 現計画・城東地区の意見をもとに検討した代替案（西長江川開削＋トンネル）の比較について

## 大橋川改修計画（現計画）

## 西長江川開削＋日本海へトンネル放水路

大橋川での共通となる工事項目

宍道湖水位は、H.P.+2.5mであり、築堤（工事、用地・家屋補償）、大橋・新大橋架替え等は必要となります。

- ・大橋川沿川の地盤高は計画で想定している洪水の水位に対して、ほとんどの箇所が低くなっています。したがって、計画堤防高まで堤防整備が必要となります。
- ・大橋・新大橋は計画で想定している洪水の水位に対して必要な桁下高が確保できていません。したがって、桁下高を計画堤防高まで上げる必要があります。

共通となる工事項目以外での工事費  
（築堤、大橋・新大橋架替え費用は計上していません）

大橋川の一部拡幅＋掘削  
約100億円

+

用地・家屋補償（一部拡幅）  
約50億円



約150億円

西長江川の開削 延長約1 km 約28億円

+

直径約9 mのトンネル3本 延長約3 km / 本 約307億円

+

道路橋架替え 3橋（国道431号等） 約3億円

+

鉄道橋架替え 1橋（一畑電鉄） 約2億円

+

呑口施設 約18億円

+

潮止め施設（潮止施設＋吐口施設） 約35億円

+

管理用道路（吐口部箇所） 約2億円

+

用地補償 約6億円



約400億円

工事による影響、環境に及ぼす影響等については記載していません

# 現計画・城東地区の意見をもとに検討した代替案（西長江川開削＋トンネル）の比較について

## 新たに必要となる工事項目

(イメージ図)

用地・家屋補償  
約6億円

鉄道橋架替え(一畑電鉄)  
約=2億円

穴道湖

西長江川の開削(延長約1km)  
約=28億円

呑口施設  
約=18億円

管理用道路  
(新設)  
約=2億円

道路橋架替え  
3橋(国道431号等)  
約=3億円

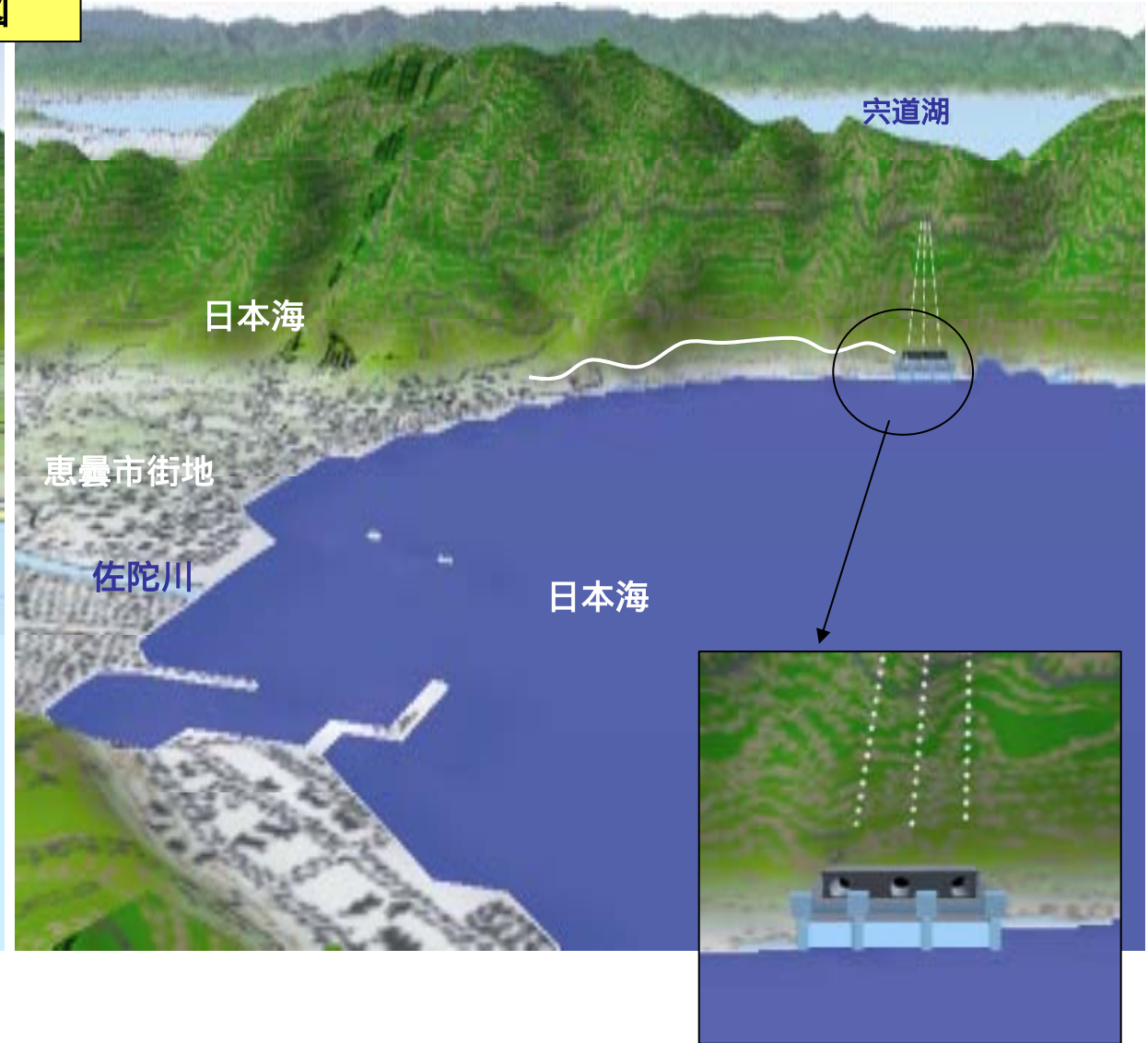
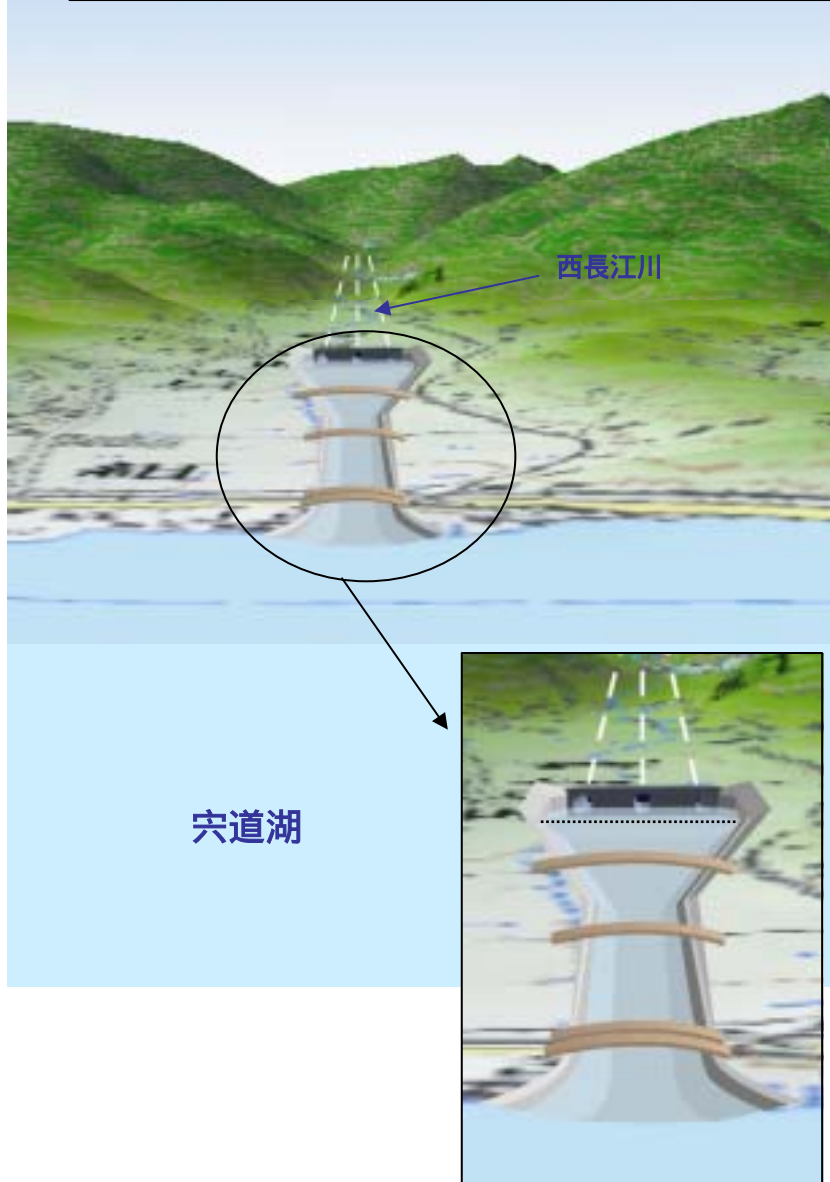
日本海

潮止め施設  
約=35億円(潮止施設+吐口施設)

直径約9mのトンネル3本  
延長約3km/本  
約307億円



代替案を整備した場合のイメージ図





代替案によって大橋川改修計画（現計画）のうち不要となる工事項目





代替案を実施しても堤防整備、大橋・新大橋は架け替えが必要

